



学校だより

令和2年11月28日

万騎小通信 12月号

横浜市立万騎が原小学校 TEL 351-5648 Fax 351-7364
E-mail ; y3makiga@edu.city.yokohama.jp

【学校教育目標】「明日を創ろう！ みんなが笑顔 夢中になって」

みんななかよく楽しい万騎小をめざして

主幹教諭（養護）石綿由美子

早いもので令和2年も残すところあと一か月となりました。コロナ禍が続く中、今年は例年とは違う年の瀬を迎えることになりそうです。

さて、マスクを着けて生活する期間もずいぶん長くなってきました。保健室では、けがや具合が悪く来室した児童について、必ず顔色や表情を見て判断の手がかりにしています。ところが、マスクをしていると顔色や表情をぱっと見ることはできません。日常生活の中でも、話している相手の表情が分からず、どんな気持ちでいるのかを感じる事が難しい場面があります。

そこで、4年生以上の代表が出席する「子どもさわやか会議」では、マスクを着けていると表情や気持ちが分かりにくいということを考えてみました。マスクで口元は隠れ目と眉だけ見えている状態の顔に、その人の気持ちを想像し、表情を描いてもらいました。楽しい、うれしいといった気持ちを口角を上げて表現した子、口をへんの字にレイライラ、むかつくといった気持ちを表現した子など、実に様々な表情と気持ちを想像していました。この活動から、想像する表情や気持ちは人それぞれ違うということがよく分かります。

講師の小川学校カウンセラーからは、人間は、1視覚 2触覚 3味覚 4嗅覚 5聴覚の5つで物事を感じ、その中でも一番の手がかりが「視覚」と言う話を伺いました。テレビのバラエティ番組では、箱の中の物を見ないで触るだけで当てるゲームを放送しています。なかなか当たらないのは不思議な気もしますが、人間は目で見て判断することがほとんどであると聞くと納得するところです。

私たちは話す時、言葉だけでなく相手の顔の表情や様子を見て、気持ちを感じとっています。今マスクで顔が見えない分、「ほわほわ言葉チクチク言葉」を意識することがとても大切です。「ありがとう」「がんばったね」「大丈夫？」など心が温かくなり、元気が出るのが「ほわほわ言葉」です。毎日の学校生活の中で「ほわほわ言葉」を大切にし、誰にとっても安心して通える学校づくりに努めていきます。また、伝えようとしても伝わっていないなと感じたら、もう少し言葉を足すこと。相手の気持ちがよく分からないという時は、聞き返すなど、あと一言の工夫で気持ちを伝えあうことができるという話も伺いました。ぜひ、日頃から心がけ、円滑なコミュニケーションをとるヒントとしていきたいと思えます。

今月は人権週間があります。学校においても新しい生活様式の中、「人との距離」を意識しながらも友達や周りの人との「心の距離」は開けることなく、人とのつながりを大切にしていけることを指導していきます。